

お客様各位

ファクトケイ株式会社

## 腐食試験管理基準について

弊社では、腐食試験条件を満たす為に以下の方法を実施しております。

- ① 温湿度の安定後、混合ガス試験の場合、1種類ずつガス検知管にて測定。  
ガス種により干渉のため正確に測定する事が出来ないので1種類ずつガス検知管にて測定検定しています。
- ② 各ガス濃度が試験条件の範囲を確認後、検知管画像を保存。
- ③ 流していたガスは1度抜いてから、他のガス種濃度出しを開始。
- ④ 各ガス濃度の条件確認後、すべてのガスを混合。

※試験を開始してからは、4種類のガスを同時に流す都合上、干渉のため各ガス濃度を検知管で正確に確認する事が出来ません。その為、試験中は温湿度、ガス流量、通気状態の確認を行っています。

銅試験片についてですが、環境差に敏感で主に以下の条件により大きく影響を受けると考えております。

1. メーカーや製造ロット
  2. 洗浄による前処理
  3. 風速・風向
  4. 加湿方法
  5. 設置状態
- ① 銅試験片のモニタ材料は、表面粗さなどモニタ材料としての条件が試験規格の改定時に変更される場合があります。
  - ② 規格が規定された当時と現在では状況が違う為、このような変更があると考えられますが、現状において銅試験片の代わりとなる様な、腐食量の確認・管理が出来る方法はありません。更に腐食原因となるファクターが多すぎる為、管理・確認可能なデータとして出すことが出来ません。

上記通り試験結果を基に比較、品質管理していただくしか無いのが現状となっております。

なお、試験の再現性や均一性を測定する目的で、サンプルに対するモニタ材料投入のご依頼をいただく場合がございます。

誠に恐れ入りますが、試験規格のモニタ材料の規定、選定理由などに関しましては日本規格協会にお問い合わせいただきますようお願い申し上げます。

何卒ご理解いただき、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。